通信取扱説明書　AER-102-DO(C5)

No. AER1CDOJ3　2019.07

この通信取扱説明書(以下，本書)は，AER-102-DO(以下，本器)の通信機能について説明したものです。
誤った取扱いなどによる事故防止のため，本書は最終的に本器をお使いになる方のお手もとに，確実に届けられるようお取り計らいください。

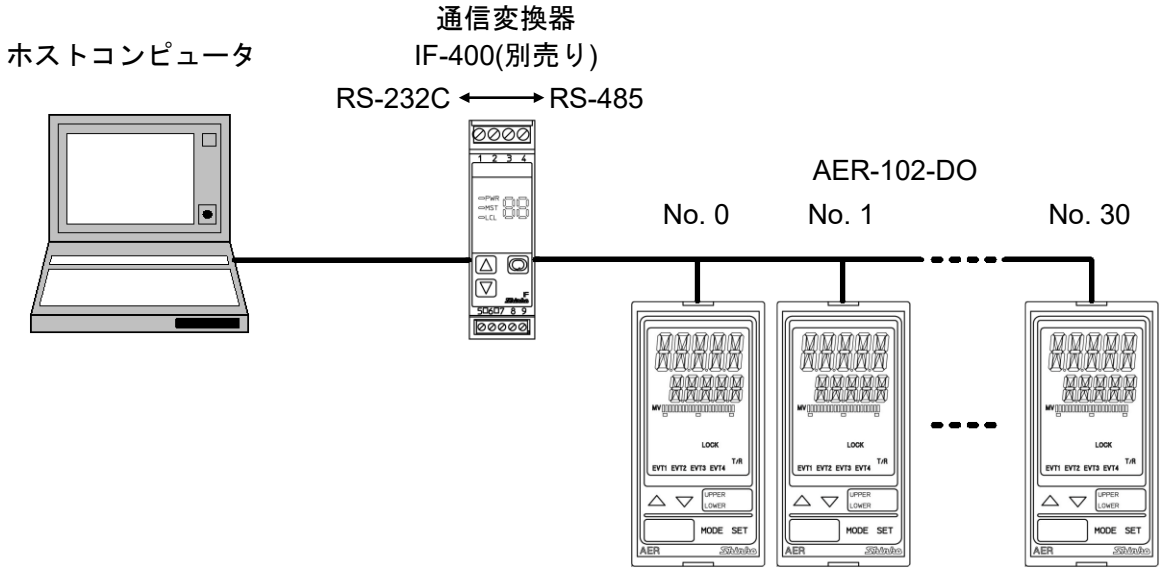
⚠ 警　告

配線などの作業を行う時は，本器への供給電源を切った状態で行ってください。電源を入れた状態で作業を行うと，感電のため人命や重大な傷害にかかわる事故の起こる可能性があります。

1.　システム構成例

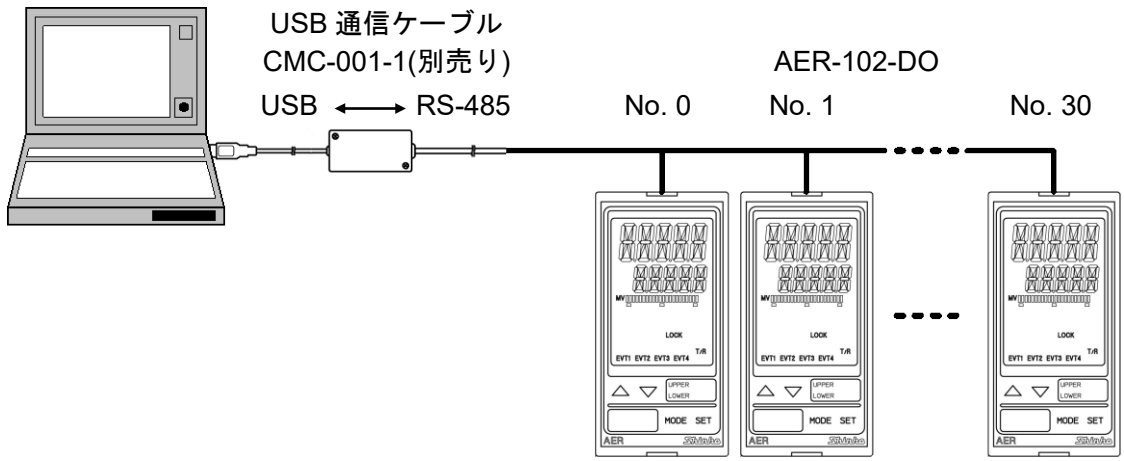
通信変換器IF-400およびUSB通信ケーブルCMC-001-1を使用する場合のシステム構成例を以下に示します。

通信変換器 IF-400 を使用する場合



(図1-1)

USB 通信ケーブル CMC-001-1 を使用する場合



(図1-2)

2. 配 線

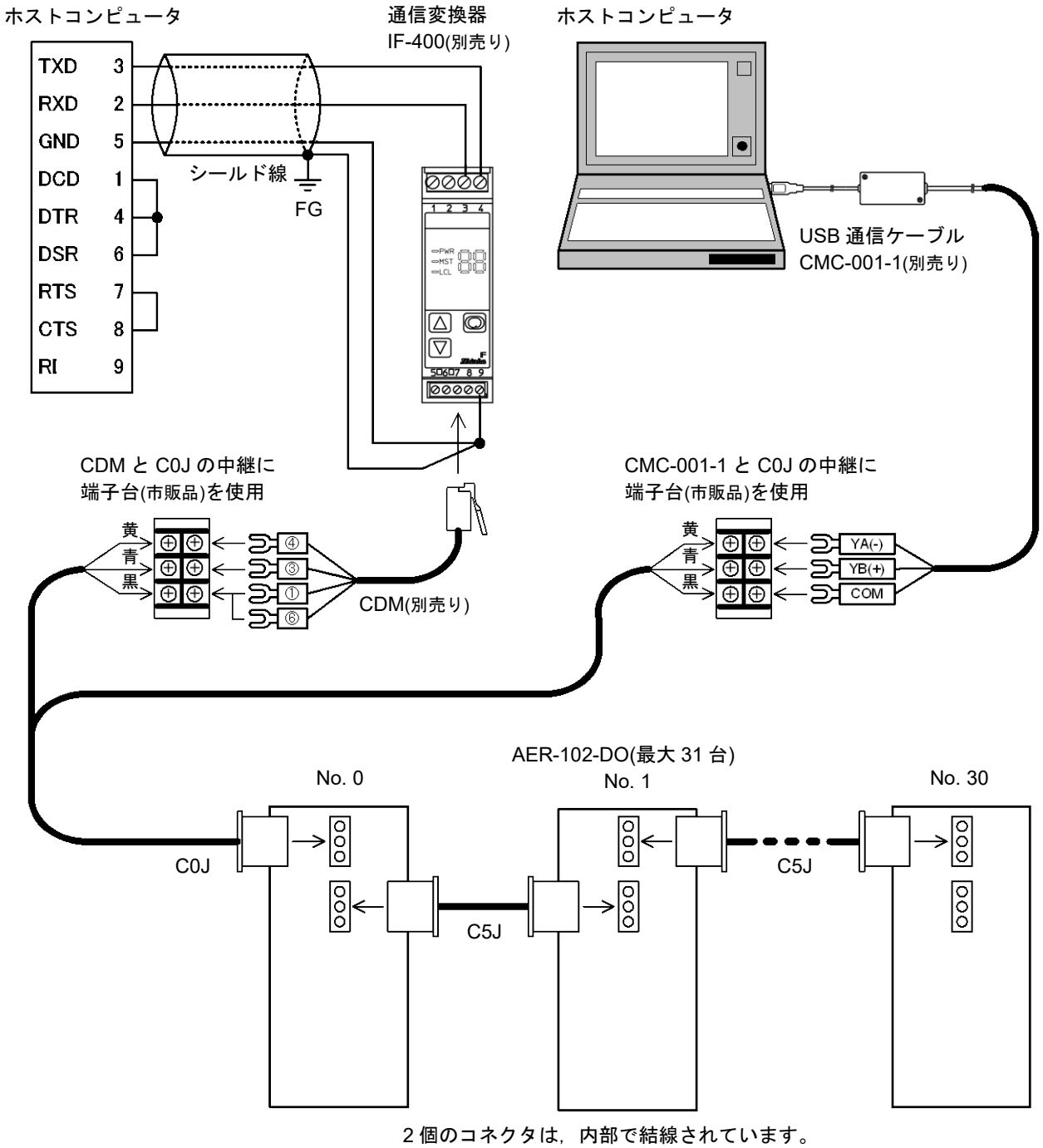
通信変換器IF-400およびUSB通信ケーブルCMC-001-1を使用する場合の配線例を以下に示します。

通信変換器IF-400を使用する場合，付属のワイヤハーネス(C0J: IF-400 - AER-102-DO間，C5J: AER-102-DO間)の他，シールド線およびCDM(別売り)を使用してください。

USB通信ケーブルCMC-001-1を使用する場合，付属のワイヤハーネス(C0J: IF-400 - AER-102-DO間，C5J: AER-102-DO間)を使用してください。

・通信変換器IF-400を使用する場合

・USB通信ケーブルCMC-001-1を使用する場合



(図2-1)

シールド線について

シールド部に電流が流れないように，シールド線の片側のみFGに接続してください。

シールド部の両側をFGに接続すると，シールド線と大地の間で閉回路ができ，シールド線に電流が流れて，ノイズの影響を受けやすくなります。

FGは，必ず接地処理を行ってください。

推奨ケーブル: オーナンバ株式会社 OTSC-VB 2PX0.5SQ または同等品(ツイストペアシールド線ををご使用ください)。

終端抵抗(ターミネータ)について

通信変換器[IF-400(別売り)]は，終端抵抗を内蔵しています。
終端抵抗とは，ターミネータともいい，パソコンに周辺機器を数珠繋ぎにした時，配線の終端に取り付ける抵抗のことで，終端での信号の反射を防ぎ，信号の乱れを防ぎます。
本器は，プルアップ抵抗およびプルダウン抵抗を内蔵していますので，通信ライン上に終端抵抗は必要ありません。

3. 計器の設定方法

通信パラメータの設定は，通信機能設定グループで行います。

通信機能設定グループに移行するには，以下の手順で行ってください。

① c.oMM□　表示モードまたは洗浄出力モードで，MODE キーを 6 回押してください。
EVT3, EVT4 出力(オプション: EVT3)を付加している場合，MODE キーを 8 回押してください。

② cMtL□　SET キーを押してください。
通信機能設定グループに移行し，通信プロトコル選択項目を表示します。

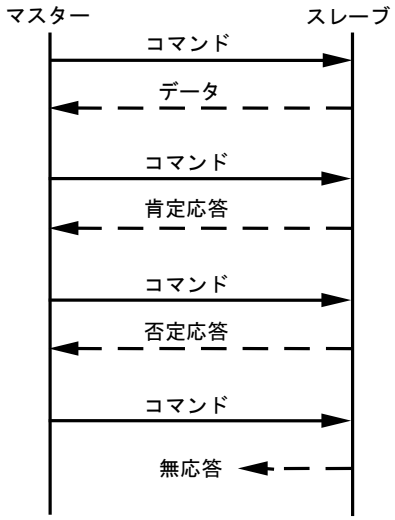
③ 各設定項目を設定してください。(△キーまたは▽キーで行い，設定値の登録は SET キーで行います。)

キャラクタ	名 称，機能説明，設定範囲	工場出荷初期値
cMtL□ NoML□	**通信プロトコル選択** ・通信プロトコルを選択してください。 ・NoML□ ：神港標準 ModA□ ：MODBUS ASCII モード ModR□ ：MODBUS RTU モード	神港標準
cMNo□ □□□0	**機器番号設定** ・本器を複数台接続して通信を行う場合，各計器に個別の機器番号を設定してください。 ・0～95	0
cMtP□ □□□96	**通信速度選択** ・ホストコンピュータ側の通信速度に合わせて，通信速度を選択してください。 ・□□□96 ：9600 bps □□192 ：19200 bps □□384 ：38400 bps	9600 bps
cMFr□ 7EvN□	**データビット/パリティ選択** ・データビットおよびパリティを選択してください。 ・8NoN□ ：8 ビット/無し 7NoN□ ：7 ビット/無し 8EvN□ ：8 ビット/偶数 7EvN□ ：7ビット/偶数 8odd□ ：8ビット/奇数 7odd□ ：7ビット/奇数	7ビット/偶数
cMtr□ □□□1	**ストップビット選択** ・ストップビットを選択してください。 ・□□□1 ：ストップビット1 □□□2 ：ストップビット2	ストップビット1

④ SET キーを押してください。表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

4. 通信手順

ホストコンピュータ(以後マスターと表記します)のコマンド送出で始まり，本器(以後スレーブと表記します)からの応答で終わります。



(図 4-1)

・データを伴う応答
読み取りコマンドでは，そのコマンドに対応する設定値または動作状態等のデータを応答として返します。

・肯定応答
設定コマンドでは，その処理終了後，応答として肯定応答を返します。

・否定応答
存在しないコマンドまたは設定範囲を超える値等の時は，否定応答を返します。

・無応答
以下の場合，応答を返しません。
・グローバルアドレス(神港標準プロトコル)設定時
・ブロードキャストアドレス(MODBUS プロトコル)設定時
・通信エラー(フレーミングエラー，パリティエラー)
・チェックサムエラー(神港標準プロトコル)，LRC の不一致(MODBUS ASCII モード)，CRC-16 の不一致(MODBUS RTU モード)

RS-485 の通信タイミング

マスター側について(プログラム作成上の注意)

マスターは，RS-485規格の通信回線に送信を開始する際，受信側の同期を確実にするため，コマンドの送出前に1キャラクタ伝送時間以上のアイドル状態(マーク状態)を設けてください。
コマンド送出後，スレーブからの応答の受信に備えて1キャラクタ伝送時間以内にトランスミッタを通信ラインから切り離してください。
マスターからの送信とスレーブからの送信が衝突するのを避けるため，マスターが確実に応答を受信したことを確認し，次のコマンドを送信してください。
通信エラーにより，コマンドに対する応答を得られない場合，コマンドを送り直すリトライ処理を組み込んでください(2回以上のリトライを推奨)。

スレーブ側について

スレーブは，RS-485規格の通信回線に送信を開始する際，受信側の同期を確実にするため，応答データの送出前に1キャラクタ伝送時間以上のアイドル状態(マーク状態)を設けています。
応答データ送出後，1キャラクタ伝送時間以内にトランスミッタを通信ラインから切り離します。

5.　神港標準プロトコル

5.1　伝送モード

標準プロトコルはASCIIコードを使用します。コマンド中の8ビットバイナリデータを上位下位4ビットに分けた16進数(0～9，A～F)をそれぞれASCII文字として送信します。

データ構成　スタートビット：　1ビット
　　データビット　：　7ビット
　　パリティビット：　偶数
　　ストップビット：　1ビット
エラー検出　チェックサム方式

5.2　コマンドの構成

コマンドは，すべてASCIIコードで構成します。
コマンド下の数字は，キャラクタ数を表しています。
データ(設定値)は，10進数を16進数に変換します。負数は2の補数で表します。

(1) 設定コマンド

ヘッダ(02H)	機器番号	サブアドレス(20H)	コマンド種別(50H)	データ項目	データ	チェックサム	デリミタ(03H)
1	1	1	1	4	4	2	1

(2) 読取りコマンド

ヘッダ(02H)	機器番号	サブアドレス(20H)	コマンド種別(20H)	データ項目	チェックサム	デリミタ(03H)
1	1	1	1	4	2	1

(3) データを伴う応答

ヘッダ(06H)	機器番号	サブアドレス(20H)	コマンド種別(20H)	データ項目	データ	チェックサム	デリミタ(03H)
1	1	1	1	4	4	2	1

(4) 肯定応答

ヘッダ(06H)	機器番号	チェックサム	デリミタ(03H)
1	1	2	1

(5) 否定応答

ヘッダ(15H)	機器番号	エラーコード	チェックサム	デリミタ(03H)
1	1	1	2	1

ヘッダ　：コマンド，応答の始めを表す制御コードで，ASCIIコードを使用します。
設定コマンド，読取りコマンドの場合，STX(02H)固定です。
データを伴う応答，肯定応答の場合，ACK(06H)固定です。
否定応答の場合，NAK(15H)固定です。

機器番号　：マスターが各々のスレーブを識別するための番号です。
機器番号0～94とグローバルアドレス95で，機器番号0～95(00H～5FH)に(20H)を加算したASCIIコード(20H～7FH)を使用します。
95(7FH)をグローバルアドレスといい，接続されている全てのスレーブに同じコマンドを送りたい時に使います。ただし，応答は返しません。

サブアドレス　：(20H)固定です。

コマンド種別　：設定コマンド(50H)，読み取り(20H)を識別するためのコードです。

データ項目　：コマンドの対象となるデータ分類です。
4桁の16進数をASCIIコードで表します。[7. 通信コマンド一覧(P.11～20)参照]

データ　：設定コマンドにより，データ(設定値)の内容が異なります。
4桁の16進数をASCIIコードで表します。[7. 通信コマンド一覧(P.11～20)参照]

チェックサム：通信誤り検出のための，2文字のデータです。[5.3 チェックサムの計算方法参照]

デリミタ　：コマンドの終わりを表す制御コードで，ASCIIコードETX(03H)固定です。

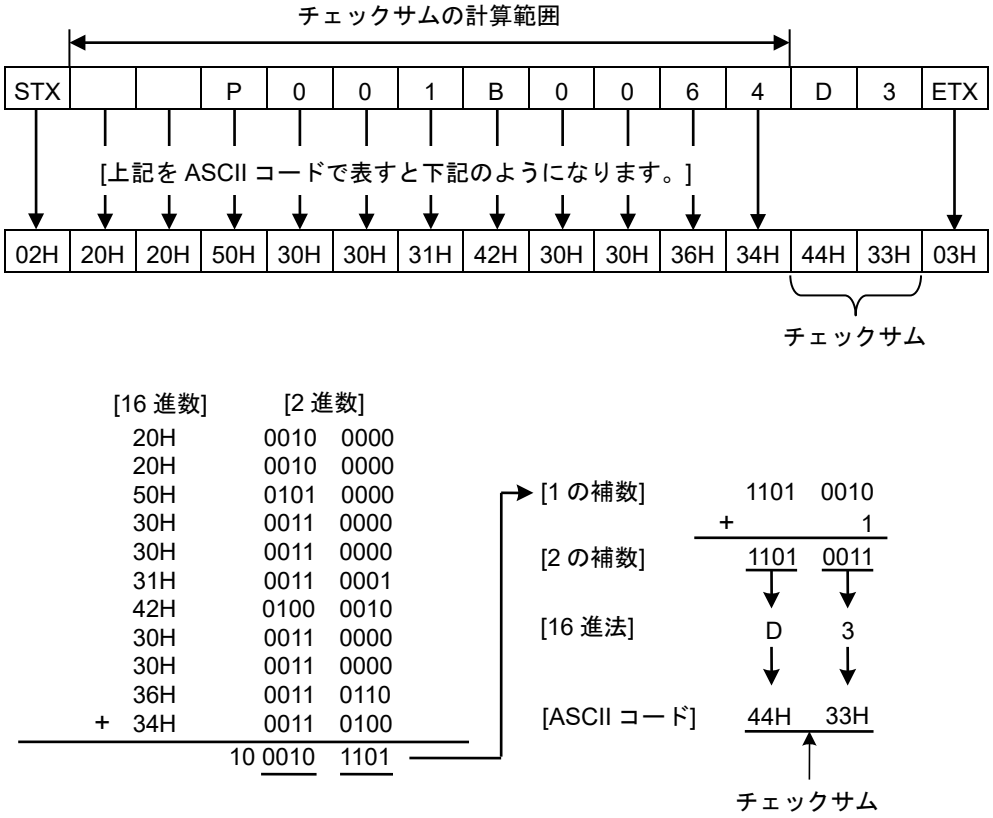
エラーコード：エラーの種類を表し，以下の数値をASCIIコードで表します。
1(31H)....存在しないコマンドの場合
2(32H)....未使用
3(33H)....設定値の範囲を超えた場合
4(34H)....設定出来ない状態(校正中)の場合
5(35H)....キー操作による設定モード中の場合

5.3　チェックサムの計算方法

チェックサムは，コマンドまたはデータの受信誤りを検出するために用います。
マスター側にも，スレーブからの応答データのチェックサムを計算するプログラムを作成して，通信誤りがないことを確認するようにしてください。
チェックサムは，アドレス(機器番号)からチェックサムの前の文字までの文字コードを加算し，その合計値の2の補数を16進数で表現した下位2桁をASCIIコード化したものです。
・1の補数は，2進数の"0"と"1"を反転させた数です。
・2の補数は，1の補数に"1"を加えた数です。

[チェックサムの計算例]
データ項目001BH(EVT1動作ON遅延タイマ設定)で100秒(0064H)を設定する場合の計算例を示します。アドレス(機器番号)を0(20H)とします。

[例]



(図 5.3-1)

6. MODBUS プロトコル

6.1 伝送モード

MODBUS プロトコルには，2 つの伝送モード(ASCII モード，RTU モード)があり，構造は以下のとおりです。

ASCII モード

ASCII モードは，コマンド中の 8 ビットバイナリデータを上位下位 4 ビットに分けた 16 進数(0～9，A～F)をそれぞれ ASCII 文字として送信します。

データ構成　スタートビット：1ビット
　　データビット　：7ビット(8ビット) 選択可能
　　パリティビット：偶数(無し，奇数) 選択可能
　　ストップビット：1ビット(2ビット) 選択可能
エラー検出　LRC(水平冗長検査)方式

RTU モード

RTU モードは，コマンド中の 8 ビットバイナリデータをそのまま送信します。

データ構成　スタートビット：1ビット
　　データビット　：8ビット
　　パリティビット：無し(偶数，奇数) 選択可能
　　ストップビット：1ビット(2ビット) 選択可能
エラー検出　CRC-16(周期冗長検査)方式

6.2 データの通信間隔

ASCII モード

ASCII モードの文字間の通信間隔は，最大 1 秒まで可能です。

RTU モード

通信速度が 9600 bps，19200 bps の場合，1 つのメッセージを構成するデータの通信間隔は，最大 1.5 文字伝送時間以上長くならないよう連続して送信してください。
通信速度が 38400 bps の場合，1 つのメッセージを構成するデータの通信間隔は，750 μs 以上長くならないよう連続して送信してください。
上記時間より長い場合，本器はマスターからの送信が終了したものと判断し，通信エラーとなり応答を返しません。

6.3 メッセージの構成

ASCII モード

ASCII モードのメッセージは，開始文字[: (コロン)(3AH)]で始まり，終了文字[CR(キャリッジリターン)(0DH)+LF(ラインフィード)(0AH)]で終わるように構成されています。

ヘッダ (:)	スレーブ アドレス	機能コード	データ	エラーチェック LRC	デリミタ (CR)	デリミタ (LF)

RTU モード

RTU モードのメッセージは，通信速度が 9600 bps，19200 bps の場合，3.5 文字伝送時間以上のアイドル後に始まり，3.5 文字伝送時間以上のアイドル経過で終わるように構成されています。
通信速度が 38400 bps の場合，1.75 ms 以上のアイドル後に始まり，1.75 ms 以上のアイドル経過で終わるように構成されています。

アイドル 3.5 文字	スレーブ アドレス	機能コード	データ	エラーチェック CRC-16	アイドル 3.5 文字

6.3.1　スレーブアドレス

スレーブアドレスは，スレーブ側個別の機器番号で 0～95(00H～5FH)の範囲で設定します。
マスター側は，要求メッセージのスレーブアドレスによってスレーブ側を指定します。
スレーブ側は，応答メッセージに自身のスレーブアドレスをセットして，マスター側にどのスレーブが応答しているかを知らせます。(スレーブアドレス(00H)は，ブロードキャストアドレスで全てのスレーブを指定できます。ただし，スレーブ側は応答を返しません。)

6.3.2　機能コード

機能コードは，スレーブ側に対する動作の種類を指示するコードです。
(表 6.3.2-1)

機能コード	内 容
03(03H)	スレーブからの設定値，情報の読取り。
06(06H)	スレーブへの設定。

機能コードは，スレーブ側がマスター側に応答メッセージを返す時，正常な応答(肯定応答)または何らかのエラー(否定応答)を示すのに用いられます。
肯定応答では，元の機能コードをセットして返します。
否定応答では，元の機能コードの最上位ビットに 1 をセットして返します。
[例えば，機能コードを誤って(10H)をセットしてスレーブ側へ要求メッセージを送信した場合，存在しない機能コードなので最上位ビットに 1 をセットし，(90H)として返します。]

否定応答では，マスター側にどの種のエラーが発生したかを知らせるため，応答メッセージのデータに下表のような異常コードをセットして返します。
(表 6.3.2-2)

異常コード	内 容
1(01H)	Illegal function(存在しない機能)
2(02H)	Illegal data address(存在しないデータアドレス)
3(03H)	Illegal data value(設定範囲外の値)
17(11H)	神港標準プロトコルのエラーコード 4 と同じです。 [設定できない状態(校正中)の場合]
18(12H)	神港標準プロトコルのエラーコード 5 と同じです。 (キー操作による設定モード中の場合)

6.3.3　データ

データは，機能コードにより構成が異なります。
マスター側からの要求メッセージは，データ項目やデータ数，設定データで構成します。
スレーブ側からの応答メッセージは，要求に対するバイト数やデータ，否定応答時は異常コード等で構成します。
データの有効範囲は-32768～32767(8000H～7FFFH)です。

6.3.4　エラーチェック

ASCII モード

ASCII モードのエラーチェックは, スレーブアドレスからデータの最後までの LRC(水平冗長検査)を計算し，算出した 8 ビットデータを ASCII 文字 2 文字に変換してデータの後にセットします。

LRC の計算方法

① RTU モードでメッセージを作成します。
② スレーブアドレスからデータの最後までを加算し，X に代入します。
③ X の補数(ビット反転)をとり，X に代入します。
④ X に 1 を足し，X に代入します。
⑤ X を LRC として，データの後にセットします。
⑥ メッセージを ASCII 文字に変換します。

RTU モード

RTU モードのエラーチェックは，スレーブアドレスからデータの最後までの CRC-16(周期冗長検査)を計算し，算出した 16 ビットデータを下位上位の順にデータの後にセットします。

CRC-16 の計算方法

CRC-16 方式は送るべき情報を生成多項式で割り，その余りを情報の後ろに付加して送信します。(生成多項式: $X^{16}+X^{15}+X^{2}+1$)

① CRC-16 のデータ(X とする)を初期化します。(FFFFH)
② 1 つ目のデータと X の排他的論理和(XOR)を取り，X に代入します。
③ X を右に 1 ビットシフトし，X に代入します。
④ シフト結果でキャリーが出れば，③の結果 X と固定値(A001H)で XOR を取り，X に代入します。キャリーが出なければ⑤へ。
⑤ 8 回シフトするまで③と④を繰り返します。
⑥ 次のデータと X の XOR を取り，X に代入します。
⑦ ③～⑤を繰り返します。
⑧ 最後のデータまで③～⑤を繰り返します。
⑨ X を CRC-16 としてメッセージに下位上位の順でデータの後にセットします。

6.4 メッセージ例

ASCII モード

コマンド下の数字は，キャラクタ数を表しています。

①スレーブアドレス 1，データ項目 0080H(溶存酸素濃度の読み取り)

・マスター側からの要求メッセージ
データ数とは，読取りするデータ項目で(30H 30H 30H 31H)固定になっています。

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ数	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(30H 33H)	[0080H] (30H 30H 38H 30H)	[0001H] (30H 30H 30H 31H)	(37H 42H)	(0DH 0AH)
1	2	2	4	4	2	2

・正常時のスレーブ側の応答メッセージ[溶存酸素濃度が 1.00 mg/L(0064H)の場合]
応答バイト数とは，読取ったデータのバイト数で，(30H 32H)固定になっています。

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	応答バイト数	データ	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(30H 33H)	[02H] (30H 32H)	[0064H] (30H 30H 36H 34H)	(39H 36H)	(0DH 0AH)
1	2	2	2	4	2	2

・異常時のスレーブ側の応答メッセージ(データ項目を間違えた場合)
異常時の応答メッセージは, 機能コードの最上位ビットに 1 をセットし, (83H)として返します。
エラーの内容として，異常コード(02H: 存在しないデータアドレス)を返します。

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	異常コード	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(38H 33H)	[02H] (30H 32H)	(37H 41H)	(0DH 0AH)
1	2	2	2	2	2

②スレーブアドレス 1，データ項目 001BH(EVT1 動作 ON 遅延タイマ設定)

・マスター側からの要求メッセージ[EVT1 動作 ON 遅延タイマを 100 秒(0064H)に設定する場合]

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(30H 36H)	[001BH] (30H 30H 31H 42H)	[0064H] (30H 30H 36H 34H)	(44H 45H)	(0DH 0AH)
1	2	2	4	4	2	2

・正常時のスレーブ側の応答メッセージ

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(30H 36H)	[001BH] (30H 30H 31H 42H)	[0064H] (30H 30H 36H 34H)	(44H 45H)	(0DH 0AH)
1	2	2	4	4	2	2

・異常時のスレーブ側の応答メッセージ(設定範囲外の値を設定した場合)
異常時の応答メッセージは, 機能コードの最上位ビットに 1 をセットし, (86H)として返します。
エラーの内容として異常コード(03H: 設定範囲外の値)を返します。

ヘッダ	スレーブアドレス	機能コード	異常コード	エラーチェック LRC	デリミタ
(3AH)	(30H 31H)	(38H 36H)	[03H] (30H 33H)	(37H 36H)	(0DH 0AH)
1	2	2	2	2	2

RTU モード

コマンド下の数字は，キャラクタ数を表しています。

①スレーブアドレス 1，データ項目 0080H(溶存酸素濃度の読み取り)

・マスター側からの要求メッセージ
データ数とは，読取りするデータ項目で(0001H)固定になっています。

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ数	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(03H)	(0080H)	(0001H)	(85E2H)	3.5 文字
	1	1	2	2	2	

・正常時のスレーブ側の応答メッセージ[溶存酸素濃度が 1.00 mg/L(0064H)の場合]
応答バイト数とは，読取ったデータのバイト数で，(02H)固定になっています。

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	応答バイト数	データ	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(03H)	(02H)	(0064H)	(B9AFH)	3.5 文字
	1	1	1	2	2	

・異常時のスレーブの応答メッセージ(データ項目を間違えた場合)
異常時の応答メッセージは, 機能コードの最上位ビットに 1 をセットし, (83H)として返します。
エラーの内容として異常コード(02H: 存在しないデータアドレス)を返します。

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	異常コード	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(83H)	(02H)	(C0F1H)	3.5 文字
	1	1	1	2	

②スレーブアドレス 1，データ項目 001BH(EVT1 動作 ON 遅延タイマ設定)

・マスター側からの要求メッセージ[EVT1 動作 ON 遅延タイマを 100 秒(0064H)に設定する場合]

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(06H)	(001BH)	(0064H)	(F826H)	3.5 文字
	1	1	2	2	2	

・正常時のスレーブの応答メッセージ

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	データ項目	データ	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(06H)	(001BH)	(0064H)	(F826H)	3.5 文字
	1	1	2	2	2	

・異常時の応答メッセージ(設定範囲外の値を設定した場合)
異常時の応答メッセージは, 機能コードの最上位ビットに 1 をセットし, (86H)として返します。
エラーの内容として異常コード(03H: 設定範囲外の値)を返します。

アイドル	スレーブアドレス	機能コード	異常コード	エラーチェック CRC-16	アイドル
3.5 文字	(01H)	(86H)	(03H)	(0261H)	3.5 文字
	1	1	1	2	

7. 通信コマンド一覧

7.1 設定・読み取りコマンドの注意事項

・データ(設定値)は，10進数を16進数に変換してください。負数は2の補数で表してください。
・本器を複数台接続する場合，機器番号が重ならないようにしてください。
・データ項目0200H～0209H(ユーザ保存領域1～10)は，1ワード単位で読み取りおよび設定ができます。
データ有効範囲は，-32768～32767(8000H～7FFFH)です。
・MODBUSプロトコルは，保持レジスタ(Holding Register)アドレスを使用しています。
保持レジスタ(Holding Register)アドレスは，神港標準コマンドのデータ項目を10進数に変換し，40001のオフセットを加えた値です。
(例)　データ項目0001H(信号出力応答時間設定)の場合
送信するメッセージ上のデータ項目は0001Hですが，MODBUSプロトコルの保持レジスタ(Holding Register)アドレスは40002(1+40001)になります。
・EVT3, EVT4出力(オプション: EVT3)が付加されていなくても，通信で設定および読み取りできます。
ただし，EVT3およびEVT4のコマンドの内容は機能しません。

(1) 設定コマンドについて

・不揮発性ICメモリの寿命は書き込み回数にして約100万回です。
回数を超えると設定値の記憶保持時間が短くなる恐れがありますので, 通信で設定値を頻繁に変更しないでください。(設定した値が，設定前の値と同じ場合，不揮発性ICメモリに書き込みません)
・設定値を頻繁に変更する場合，設定値ロック選択をロック3にしてください。
ロック3を選択すると，全設定値を一時的に変更できます。
変更したデータは，不揮発性メモリに書き込みませんので，計器電源を切ると前の値に戻ります。
EVT1～4動作選択項目は，変更すると他の設定に影響を及ぼしますので変更しないでください。
・各設定項目の設定範囲は，キー操作による設定範囲と同じです。
・データ(設定値)が小数点付きの場合，小数点をはずした整数表記の16進数をデータとしてください。
・データ項目 0014H(EVT1 動作選択), 0022H(EVT2 動作選択), 0030H(EVT3 動作選択), 003FH(EVT4 動作選択)で動作を変更した場合，EVT1～4 設定値は”0”に戻ります。
また，EVT1～4 出力状態も初期化します。
・設定値ロック状態でも，通信で設定できます。
・本器の機器番号，通信速度などの通信パラメータは，通信で設定できません。キー操作で設定してください。(P.3)
・グローバルアドレス[95(7FH)](神港プロトコル)またはブロードキャストアドレス(00H)(MODBUSプロトコル)で設定する場合，接続されている全てのスレーブに同じデータを送りますが，応答は返しません。

(2) 読み取りコマンドについて

・データ(設定値)が小数点付きの場合，小数点をはずした整数表記の16進数で応答を返します。

7.2 設定/読み取りコマンド

神港標準コマンド種別	MODBUS機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	0001H	信号出力応答時間設定	設定値(1～120) 1は5秒，120は600秒に相当します。
50H/20H	06H/03H	0003H	塩分濃度補正設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0004H	海抜補正設定	設定値
50H	06H	0005H	溶存酸素濃度校正モード切替選択	0000H: 表示モード 0001H: 溶存酸素濃度1点校正モード 0002H: 溶存酸素濃度2点校正モード 0003H: 濃度オプション校正モード
50H	06H	0006H	溶存酸素濃度校正開始選択	溶存酸素濃度1点校正の場合 0000H: 溶存酸素濃度1点校正モード 0001H: 1点校正(100 %飽和校正)の開始 0003H: 測定値の確定 溶存酸素濃度2点校正の場合 0000H: 溶存酸素濃度2点校正モード 0001H: 1点目校正(100 %飽和校正)の開始 0002H: 2点目校正(0点校正)の開始 0003H: 測定値の確定 濃度オプション校正の場合 0000H: 濃度オプション校正モード 0001H: 濃度オプション校正の開始 0003H: 測定値の確定
50H/20H	06H/03H	0007H	濃度目標値設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0008H	伝送出力 1 動作選択	0000H: 溶存酸素濃度伝送 0001H: 水温伝送 0002H: 溶存酸素飽和率伝送 0003H: 酸素分圧伝送 0004H: EVT1 MV伝送 0005H: EVT2 MV伝送 0006H: EVT3 MV伝送(*) 0007H: EVT4 MV伝送(*)
50H/20H	06H/03H	0009H	伝送出力 1 上限設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	000AH	伝送出力 1 下限設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	000BH	伝送出力 2 動作選択	0000H: 溶存酸素濃度伝送 0001H: 水温伝送 0002H: 溶存酸素飽和率伝送 0003H: 酸素分圧伝送 0004H: EVT1 MV伝送 0005H: EVT2 MV伝送 0006H: EVT3 MV伝送(*) 0007H: EVT4 MV伝送(*)

(*): EVT3, EVT4 出力(オプション: EVT3)を付加していない場合，設定を行うと以下のエラーコードを返します。

・神港標準の場合: エラーコード 3(33H)

・MODBUS の場合: 異常コード 3(03H)

神港標準コマンド種別	MODBUS 機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	000CH	伝送出力 2 上限設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	000DH	伝送出力 2 下限設定	設定値，小数点は省略
50H	06H	000EH	伝送出力 1 調整モード選択	0000H: 表示モード 0001H: 伝送出力1ゼロ調整モード 0002H: 伝送出力1スパン調整モード
50H/20H	06H/03H	000FH	伝送出力 1 ゼロ調整係数設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0010H	伝送出力 1 スパン調整係数設定	設定値，小数点は省略
50H	06H	0011H	伝送出力 2 調整モード選択	0000H: 表示モード 0001H: 伝送出力2ゼロ調整モード 0002H: 伝送出力2スパン調整モード
50H/20H	06H/03H	0012H	伝送出力 2 ゼロ調整係数設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0013H	伝送出力 2 スパン調整係数設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0014H	EVT1 動作選択	0000H: 動作無し 0001H: 溶存酸素濃度入力上限動作 0002H: 溶存酸素濃度入力下限動作 0003H: 水温入力上限動作 0004H: 水温入力下限動作 0005H: 溶存酸素飽和率入力上限動作 0006H: 溶存酸素飽和率入力下限動作 0007H: 酸素分圧入力上限動作 0008H: 酸素分圧入力下限動作 0009H: センサキャップ交換タイマ 000AH: 洗浄出力 000BH: 溶存酸素濃度入力上下限個別動作 000CH: 水温入力上下限個別動作 000DH: 溶存酸素飽和率入力上下限個別動作 000EH: 酸素分圧入力上下限個別動作
50H/20H	06H/03H	0015H	EVT1 設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0016H	EVT1 比例帯設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0017H	EVT1 リセット設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0018H	EVT1 動作幅選択	0000H: 中間値 0001H: 基準値
50H/20H	06H/03H	0019H	EVT1 上方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	001AH	EVT1 下方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	001BH	EVT1 動作 ON 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	001CH	EVT1 動作 OFF 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	001DH	EVT1 比例周期設定	設定値
50H/20H	06H/03H	001EH	EVT1 出力上限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	001FH	EVT1 出力下限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0020H	EVT1 出力 ON 時出力 ON 時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0021H	EVT1 出力 ON 時出力 OFF 時間設定	設定値

神港標準コマンド種別	MODBUS 機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	0022H	EVT2 動作選択	0000H: 動作無し 0001H: 溶存酸素濃度入力上限動作 0002H: 溶存酸素濃度入力下限動作 0003H: 水温入力上限動作 0004H: 水温入力下限動作 0005H: 溶存酸素飽和率入力上限動作 0006H: 溶存酸素飽和率入力下限動作 0007H: 酸素分圧入力上限動作 0008H: 酸素分圧入力下限動作 0009H: センサキャップ交換タイマ 000AH: 洗浄出力 000BH: 溶存酸素濃度入力上下限個別動作 000CH: 水温入力上下限個別動作 000DH: 溶存酸素飽和率入力上下限個別動作 000EH: 酸素分圧入力上下限個別動作
50H/20H	06H/03H	0023H	EVT2 設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0024H	EVT2 比例帯設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0025H	EVT2 リセット設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0026H	EVT2 動作幅選択	0000H: 中間値 0001H: 基準値
50H/20H	06H/03H	0027H	EVT2 上方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0028H	EVT2 下方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0029H	EVT2 動作 ON 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002AH	EVT2 動作 OFF 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002BH	EVT2 比例周期設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002CH	EVT2 出力上限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002DH	EVT2 出力下限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002EH	EVT2 出力 ON 時出力 ON 時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	002FH	EVT2 出力 ON 時出力 OFF 時間設定	設定値

神港標準コマンド種別	MODBUS 機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	0030H	EVT3 動作選択	0000H: 動作無し 0001H: 溶存酸素濃度入力上限動作 0002H: 溶存酸素濃度入力下限動作 0003H: 水温入力上限動作 0004H: 水温入力下限動作 0005H: 溶存酸素飽和率入力上限動作 0006H: 溶存酸素飽和率入力下限動作 0007H: 酸素分圧入力上限動作 0008H: 酸素分圧入力下限動作 0009H: センサキャップ交換タイマ 000AH: 洗浄出力 000BH: 溶存酸素濃度入力上下限個別動作 000CH: 水温入力上下限個別動作 000DH: 溶存酸素飽和率入力上下限個別動作 000EH: 酸素分圧入力上下限個別動作
50H/20H	06H/03H	0031H	EVT3 設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0032H	EVT3 比例帯設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0033H	EVT3 リセット設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0034H	EVT3 動作幅選択	0000H: 中間値 0001H: 基準値
50H/20H	06H/03H	0035H	EVT3 上方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0036H	EVT3 下方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0037H	EVT3 動作 ON 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0038H	EVT3 動作 OFF 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0039H	EVT3 比例周期設定	設定値
50H/20H	06H/03H	003AH	EVT3 出力上限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	003BH	EVT3 出力下限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	003CH	EVT3 出力 ON 時出力 ON 時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	003DH	EVT3 出力 ON 時出力 OFF 時間設定	設定値

神港標準コマンド種別	MODBUS 機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	003EH	EVT4 動作選択	0000H: 動作無し 0001H: 溶存酸素濃度入力上限動作 0002H: 溶存酸素濃度入力下限動作 0003H: 水温入力上限動作 0004H: 水温入力下限動作 0005H: 溶存酸素飽和率入力上限動作 0006H: 溶存酸素飽和率入力下限動作 0007H: 酸素分圧入力上限動作 0008H: 酸素分圧入力下限動作 0009H: センサキャップ交換タイマ 000AH: 洗浄出力 000BH: 溶存酸素濃度入力上下限個別動作 000CH: 水温入力上下限個別動作 000DH: 溶存酸素飽和率入力上下限個別動作 000EH: 酸素分圧入力上下限個別動作
50H/20H	06H/03H	003FH	EVT4 設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0040H	EVT4 比例帯設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0041H	EVT4 リセット設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0042H	EVT4 動作幅選択	0000H: 中間値 0001H: 基準値
50H/20H	06H/03H	0043H	EVT4 上方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0044H	EVT4 下方側動作幅設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0045H	EVT4 動作 ON 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0046H	EVT4 動作 OFF 遅延タイマ設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0047H	EVT4 比例周期設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0048H	EVT4 出力上限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0049H	EVT4 出力下限設定	設定値
50H/20H	06H/03H	004AH	EVT4 出力 ON 時出力 ON 時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	004BH	EVT4 出力 ON 時出力 OFF 時間設定	設定値

神港標準コマンド種別	MODBUS機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	0068H	洗浄動作時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0069H	洗浄タイマ設定	設定値
50H	06H	006AH	強制洗浄モード設定	0001H: 強制洗浄モード
50H/20H	06H/03H	006BH	設定値ロック選択	0000H: ロック解除 0001H: ロック1 0002H: ロック2 0003H: ロック3
50H/20H	06H/03H	006EH	バックライト点灯箇所選択	0000H: 全点灯 0001H: 溶存酸素濃度表示器 0002H: 温度表示器 0003H: 動作表示灯 0004H: 溶存酸素濃度表示器+温度表示器 0005H: 溶存酸素濃度表示器+動作表示灯 0006H: 温度表示器+動作表示灯
50H/20H	06H/03H	006FH	溶存酸素濃度表示色切替選択	0000H: 緑 0001H: 赤 0002H: 橙 0003H: 溶存酸素濃度連動表示色切替
50H/20H	06H/03H	0070H	溶存酸素濃度表示色切替基準値設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0071H	溶存酸素濃度表示色切替範囲設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0072H	バックライト表示時間設定	設定値
50H/20H	06H/03H	0073H	バーグラフ表示選択	0000H: 表示無し 0001H: 伝送出力1 0002H: 伝送出力2
50H/20H	06H/03H	0074H	入力異常時 EVT 出力動作選択	0000H: 有効 0001H: 無効
50H/20H	06H/03H	0075H	データクリア選択	0000H: 校正値 0001H: 設定値
50H	06H	0076H	データクリア確認選択	0000H: データクリア中止 0001H: データクリア実行
50H/20H	06H/03H	0077H	洗浄待機時間設定	設定値
50H	06H	007FH	キー操作変更フラグのクリア	0001H: 変更フラグのクリア

神港標準コマンド種別	MODBUS 機能コード	データ項目		データ
50H/20H	06H/03H	0100H	EVT1 上下限個別下方側設定	
50H/20H	06H/03H	0101H	EVT2 上下限個別下方側設定	
50H/20H	06H/03H	0102H	EVT3 上下限個別下方側設定	
50H/20H	06H/03H	0103H	EVT4 上下限個別下方側設定	
50H/20H	06H/03H	0106H	EVT1 上下限個別上方側設定	
50H/20H	06H/03H	0107H	EVT2 上下限個別上方側設定	
50H/20H	06H/03H	0108H	EVT3 上下限個別上方側設定	
50H/20H	06H/03H	0109H	EVT4 上下限個別上方側設定	
50H/20H	06H/03H	010CH	EVT1 動作すきま設定	
50H/20H	06H/03H	010DH	EVT2 動作すきま設定	
50H/20H	06H/03H	010EH	EVT3 動作すきま設定	
50H/20H	06H/03H	010FH	EVT4 動作すきま設定	
50H/20H	06H/03H	0112H	校正時伝送出力 1 出力状態選択	0000H: 直前値ホールド 0001H: 設定値ホールド 0002H: 測定値
50H/20H	06H/03H	0113H	校正時伝送出力 1 設定値ホールド設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0114H	校正時伝送出力 2 出力状態選択	0000H: 直前値ホールド 0001H: 設定値ホールド 0002H: 測定値
50H/20H	06H/03H	0115H	校正時伝送出力 2 設定値ホールド設定	設定値，小数点は省略
50H/20H	06H/03H	0200H	ユーザ保存領域 1	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0201H	ユーザ保存領域 2	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0202H	ユーザ保存領域 3	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0203H	ユーザ保存領域 4	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0204H	ユーザ保存領域 5	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0205H	ユーザ保存領域 6	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0206H	ユーザ保存領域 7	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0207H	ユーザ保存領域 8	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0208H	ユーザ保存領域 9	-32768～32767(8000H～7FFFH)
50H/20H	06H/03H	0209H	ユーザ保存領域 10	-32768～32767(8000H～7FFFH)

7.3 読み取り専用コマンド

<table>
<tr><th>神港標準
コマンド
種別</th><th>MODBUS
機能
コード</th><th colspan="2">データ項目</th><th>データ</th></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0080H</td><td>溶存酸素濃度の読み取り</td><td>溶存酸素濃度，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0081H</td><td>溶存酸素飽和率の読み取り</td><td>溶存酸素飽和率，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0082H</td><td>酸素分圧の読み取り</td><td>酸素分圧，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0083H</td><td colspan="2">状態フラグ1の読み取り
0000　0000　0000　0000
2^{15}　～　2^{0}

2^{0}桁:　溶存酸素濃度が測定レンジ外(上限値)　0: 無し　1: 有り
2^{1}桁:　溶存酸素濃度が測定レンジ外(下限値)　0: 無し　1: 有り
2^{2}桁:　溶存酸素飽和率が測定レンジ外(上限値)　0: 無し　1: 有り
2^{3}桁:　溶存酸素飽和率が測定レンジ外(下限値)　0: 無し　1: 有り
2^{4}桁:　酸素分圧が測定レンジ外(上限値)　0: 無し　1: 有り
2^{5}桁:　酸素分圧が測定レンジ外(下限値)　0: 無し　1: 有り
2^{6}桁:　通信不良または溶存酸素検出器無し　0: 無し　1: 有り
2^{7}桁:　溶存酸素検出器のセンサキャップ無しまたは装着不良
0: 無し　1: 有り
2^{8}桁:　校正エラー　0: 無し　1: 有り
2^{9}桁:　運転状態フラグ　0: 表示モード
1: 設定モード
2^{10}, 2^{11}桁:　校正モード状態フラグ
<table>
<tr><th>2^{11}</th><th>2^{10}</th><th>状 態</th></tr>
<tr><td>0</td><td>0</td><td>表示モード</td></tr>
<tr><td>0</td><td>1</td><td>溶存酸素濃度1点校正モード</td></tr>
<tr><td>1</td><td>0</td><td>溶存酸素濃度2点校正モード</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td>濃度オプション校正モード</td></tr>
</table>
2^{12}, 2^{13}桁:　校正状態フラグ
<table>
<tr><th>2^{13}</th><th>2^{12}</th><th>状 態</th></tr>
<tr><td>0</td><td>0</td><td>待機状態</td></tr>
<tr><td>0</td><td>1</td><td>1点目校正(100 %飽和校正)中</td></tr>
<tr><td>1</td><td>0</td><td>2点目校正(0点校正)中</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td>濃度オプション校正中</td></tr>
</table>
2^{14}桁:　溶存酸素検出器から正常に測定値が取得できない
0: 無し　1: 有り
2^{15}桁:　キー操作変更の有無　0: 無し　1: 有り</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0084H</td><td>EVT1操作量の読み取り</td><td>操作量，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0085H</td><td>EVT2操作量の読み取り</td><td>操作量，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0086H</td><td>EVT3操作量の読み取り</td><td>操作量，小数点は省略</td></tr>
<tr><td>20H</td><td>03H</td><td>0087H</td><td>EVT4操作量の読み取り</td><td>操作量，小数点は省略</td></tr>
</table>

神港標準コマンド種別	MODBUS機能コード	データ項目		データ
20H	03H	0090H	温度の読み取り	温度，小数点は省略
20H	03H	0091H	センサキャップ交換タイマ残時間	センサキャップ交換タイマ残時間
20H	03H	0093H	状態フラグ2の読み取り 0000　0000　0000　0000 2^{15}　～　2^{0}	

2^{0}桁:　温度が測定レンジ外(上限値)　0: 無し　1: 有り
2^{1}桁:　温度が測定レンジ外(下限値)　0: 無し　1: 有り
2^{2}桁:　EVT1出力　0: OFF　1: ON
2^{3}桁:　EVT2出力　0: OFF　1: ON
2^{4}桁:　EVT3出力　0: OFF　1: ON
2^{5}桁:　EVT4出力　0: OFF　1: ON
2^{6}～2^{7}桁:　未使用　(常に0)
2^{8}, 2^{9}桁:　伝送出力1調整状態フラグ

2^{9}	2^{8}	状 態
0	0	表示モード
0	1	伝送出力1調整モード 伝送出力1ゼロ調整中
1	0	伝送出力1調整モード 伝送出力1スパン調整中

2^{10}, 2^{11}桁:　伝送出力2調整状態フラグ

2^{11}	2^{10}	状 態
0	0	表示モード
0	1	伝送出力2調整モード 伝送出力2ゼロ調整中
1	0	伝送出力2調整モード 伝送出力2スパン調整中

2^{12}, 2^{13}桁:　洗浄状態フラグ

2^{13}	2^{12}	状 態
0	0	表示モード
0	1	洗浄タイマ動作中
1	0	洗浄時間中
1	1	洗浄待機中

2^{14}桁:　自己診断出力　0: OFF　1: ON
2^{15}桁:　未使用　(常に0)

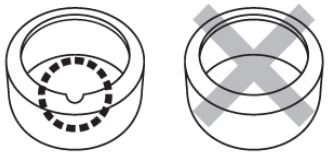
7.4 通信コマンドによる溶存酸素濃度校正

通信による溶存酸素濃度校正は，キー操作同様，溶存酸素濃度 1 点校正モード，溶存酸素濃度 2 点校正モードおよび濃度オプション校正モードの 3 種類の校正方法があります。

7.4.1 準 備

(1) 溶存酸素検出器本体および測定部をきれいに清掃し，水分を完全に取り除いてください。

(2) 校正容器の保管キャップを取り外し，校正用キャップ(通気性のあるキャップ)に交換してください。



校正用キャップ　保管キャップ

(図 7.4.1-1)

(3) 溶存酸素検出器と校正に使用する水は，約 30 分間室温になじませてください。

(4) 7.4.2 溶存酸素濃度 1 点校正モード，7.4.3 溶存酸素濃度 2 点校正モードまたは 7.4.4 濃度オプション校正モードの中から選択し，校正を行ってください。

7.4.2 溶存酸素濃度 1 点校正モード

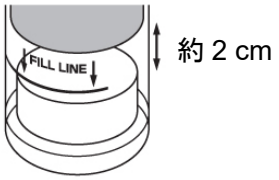
⚠ 注 意

・塩分濃度補正を行っている場合，塩分濃度補正値を 0 PSU に戻してから校正を行ってください。
[データ項目 0003H(塩分濃度補正設定)]
塩分濃度補正を行ったまま校正を行うと，校正エラーになるかまたは正しく校正できません。
・高地で使用する場合，より正確な校正を行うため，海抜補正を行った後，校正してください。
[データ項目 0004H(海抜補正設定)]

校正手順を以下に示します。

(1) 校正容器のスポンジに，約 10 mL のイオン交換水を注入してください。

(2) 測定部が，水を含み膨らんだスポンジから約 2 cm 上の位置になるように，溶存酸素検出器を校正容器に挿入してください。



(図 7.4.2-1)

(3) 5～10 分間放置してください。

⚠ 注 意

・校正容器に溶存酸素検出器を取り付けた状態で，30 分以上放置しないでください。
測定部が結露し，測定値に影響が出ます。
結露が生じた場合，測定部の水分をふき取ってから校正をやり直してください。

(4) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0001H を選択してください。
溶存酸素濃度 1 点校正モードに移行します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{11}, 2^{10} 桁を読み取ると，01(溶存酸素濃度 1 点校正モード)を返します。

(5) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0001H を選択してください。
1 点校正(100 %飽和校正)を開始します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，01[1 点目校正(100 %飽和校正)中]を返します。

(6) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0003H を選択してください。
測定値を確定し，自動校正を行います。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，00(待機状態)を返します。
以上で，1 点校正(100 %飽和校正)は終了です。

(7) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0000H を選択してください。
溶存酸素濃度 1 点校正モードに戻ります。

(8) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

1 点校正(100 %飽和校正)中に溶存酸素濃度入力が不安定，温度補正異常などの要因で，校正が行えない場合，データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{8} 桁を読み取ると，1(校正エラー有り)を返します。
エラーを解除するには，データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を設定してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

7.4.3 溶存酸素濃度 2 点校正モード

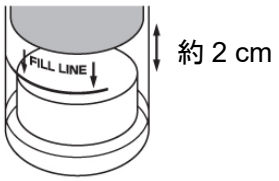
⚠ 注 意

・高地で使用する場合，より正確な校正を行うため，海抜補正を行った後，校正してください。
[データ項目 0004H(海抜補正設定)]

校正手順を以下に示します。

(1) 校正容器のスポンジに，約 10 mL のイオン交換水を注入してください。

(2) 測定部が，水を含み膨らんだスポンジから約 2 cm 上の位置になるように，溶存酸素検出器を校正容器に挿入してください。



(図 7.4.3-1)

(3) 5～10 分間放置してください。

⚠ 注 意

・校正容器に溶存酸素検出器を取り付けた状態で，30 分以上放置しないでください。
測定部が結露し，測定値に影響が出ます。
結露が生じた場合，測定部の水分をふき取ってから校正をやり直してください。

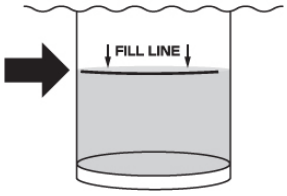
(4) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0002H を選択してください。
溶存酸素濃度 2 点校正モードに移行します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{11}, 2^{10} 桁を読み取ると，10(溶存酸素濃度 2 点校正モード)を返します。

(5) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0001H を選択してください。
1 点目校正(100 %飽和校正)を開始します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，01[1 点目校正(100 %飽和校正)中]を返します。

(6) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0003H を選択してください。
測定値を確定し，自動校正を行います。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，00(待機状態)を返します。
1 点目校正(100 %飽和校正)が終了しました。

(7) ゼロ標準液を作製してください。
ゼロ標準液は, イオン交換水 100 mL に亜硫酸ナトリウム 5 g 以上を入れ, 完全に溶かしたものです。

(8) 1 点目校正で使用した校正容器のスポンジを取り出して, ゼロ標準液を校正容器の線まで注入してください。



(図 7.4.3-2)

(9) 作製したゼロ標準液に，溶存酸素検出器の温度センサがつかるまで挿入してください。

⚠ 注 意

・測定部が，校正容器の底面と約 1 cm すきまが空くように挿入してください。
・測定部に気泡が付かないように挿入してください。

(10) 最低 5 分間放置して，温度を安定させてください。

(11) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0002H を選択してください。
2 点目校正(0 点校正)を開始します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，10[2 点目校正(0 点校正)中]を返します。

(12) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0003H を選択してください。
測定値を確定し，自動校正を行います。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，00(待機状態)を返します。
2 点目校正(0 点校正)が終了しました。
以上で，2 点校正は終了です。

(13) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0000H を選択してください。
溶存酸素濃度 2 点校正モードに戻ります。

(14) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

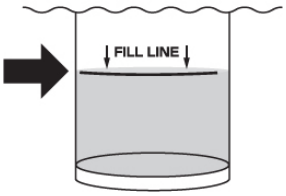
溶存酸素濃度 2 点校正中に溶存酸素濃度入力が不安定，温度補正異常などの要因で，校正が行えない場合，データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{8} 桁を読み取ると，1(校正エラー有り)を返します。
エラーを解除するには，データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

7.4.4　濃度オプション校正モード

溶存酸素濃度がわかっている水溶液に溶存酸素検出器を浸けて，測定値をその濃度に合わせることができます。
工場出荷初期値は，0.00 mg/L です。
溶存酸素濃度を 0.00～20.00 mg/L の範囲で設定できます。

既知濃度 7.77 mg/L に設定する場合の校正手順を以下に示します。

(1) 既知濃度の液を，校正容器の線まで注入してください。



(図 7.4.4-1)

(2) 注入した液に，溶存酸素検出器の温度センサがつかるまで挿入してください。

⚠ 注 意

・測定部が，校正容器の底面と約 1 cm すきまが空くように挿入してください。
・測定部に気泡が付かないように挿入してください。

(3) 最低 5 分間放置して，温度を安定させてください。

(4) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0003H を選択してください。
濃度オプション校正モードに移行します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{11}, 2^{10} 桁を読み取ると，11(濃度オプション校正モード)を返します。

(5) データ項目 0007H(濃度目標値設定)で濃度目標値(7.77)を設定してください。

(6) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0001H を選択してください。
濃度オプション校正を開始します。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，11(濃度オプション校正中)を返します。

(7) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0003H を選択してください。
測定値を確定し，校正を行います。
データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{13}, 2^{12} 桁を読み取ると，00(待機状態)を返します。
以上で，濃度オプション校正は終了です。

(8) データ項目 0006H(溶存酸素濃度校正開始選択)で 0000H を選択してください。
濃度オプション校正モードに戻ります。

(9) データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

濃度オプション校正中にエラーが生じた場合，データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)で 2^{8} 桁を読み取ると，1(校正エラー有り)を返します。
エラーを解除するには，データ項目 0005H(溶存酸素濃度校正モード切替選択)で 0000H を設定してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

7.5 伝送出力 1 調整，伝送出力 2 調整

7.5.1 伝送出力 1 調整モード

伝送出力 1 の微調整を行います。
本器は，工場出荷時に調整をしておりますが，接続機器(記録計等)の表示値と本器の出力値とに差異が生じることがあります。
このような場合，伝送出力 1 ゼロ調整および伝送出力 1 スパン調整を行ってください。

伝送出力 1 調整手順を以下に示します。

① データ項目 000EH(伝送出力 1 調整モード選択)で 0001H を選択してください。
伝送出力 1 ゼロ調整モードに移行します。
データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)で 2^9, 2^8 桁を読み取ると，01: 伝送出力 1 調整モード 伝送出力 1 ゼロ調整中を返します。
② 接続機器(記録計等)の表示値を確認しながら，データ項目 000FH(伝送出力 1 ゼロ調整係数設定)で伝送出力 1 ゼロ調整係数を設定してください。
設定範囲: 伝送出力 1 スパンの±5.00 %
③ データ項目 000EH(伝送出力 1 調整モード選択)で 0002H を選択してください。
伝送出力 1 スパン調整モードに移行します。
データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)で 2^9, 2^8 桁を読み取ると，10: 伝送出力 1 調整モード 伝送出力 1 スパン調整中を返します。
④ 接続機器(記録計等)の表示値を確認しながら, データ項目 0010H(伝送出力 1 スパン調整係数設定)で伝送出力 1 スパン調整係数を設定してください。
設定範囲: 伝送出力 1 スパンの±5.00 %
⑤ 必要に応じて①～④を繰り返し行ってください。
⑥ データ項目 000EH(伝送出力 1 調整モード選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

7.5.2 伝送出力 2 調整モード

伝送出力 2 の微調整を行います。
本器は，工場出荷時に調整をしておりますが，接続機器(記録計等)の表示値と本器の出力値とに差異が生じることがあります。
このような場合，伝送出力 2 ゼロ調整および伝送出力 2 スパン調整を行ってください。

伝送出力 2 調整手順を以下に示します。

① データ項目 0011H(伝送出力 2 調整モード選択)で 0001H を選択してください。
伝送出力 2 ゼロ調整モードに移行します。
データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)で 2^{11}, 2^{10} 桁を読み取ると，01: 伝送出力 2 調整モード 伝送出力 2 ゼロ調整中を返します。
② 接続機器(記録計等)の表示値を確認しながら，データ項目 0012H(伝送出力 2 ゼロ調整係数設定)で伝送出力 2 ゼロ調整係数を設定してください。
設定範囲: 伝送出力 2 スパンの±5.00 %
③ データ項目 0011H(伝送出力 2 調整モード選択)で 0002H を選択してください。
伝送出力 2 スパン調整モードに移行します。
データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)で 2^{11}, 2^{10} 桁を読み取ると，10: 伝送出力 2 調整モード 伝送出力 2 スパン調整中を返します。
④ 接続機器(記録計等)の表示値を確認しながら, データ項目 0013H(伝送出力 2 スパン調整係数設定)で伝送出力 2 スパン調整係数を設定してください。
設定範囲: 伝送出力 2 スパンの±5.00 %
⑤ 必要に応じて①～④を繰り返し行ってください。
⑥ データ項目 0011H(伝送出力 2 調整モード選択)で 0000H を選択してください。
表示モードまたは洗浄出力モードに戻ります。

7.6 モニタソフト作成のワンポイント

7.6.1 スキャンタイムを速くする方法

本器複数台をモニタする場合，通常はデータ項目 0080H(溶存酸素濃度の読み取り)，データ項目 0090H(温度の読み取り)，データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)，データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)などの必要最小限のデータのみを読み取り，他のデータは設定値変更があった場合に読み取るようにしてください。
そうすることで，スキャンタイムを速くできます。

7.6.2 キー操作による設定値変更を読み取る方法

本器は，キー操作により設定値を変更すると，データ項目0083H(状態フラグ1の読み取り)の2^{15}: キー操作変更の有無に”有り(1)”をセットします。
キー操作による設定値変更を読み取る方法は，下記のように2通りあります。

(1)キー操作による設定値変更を読み取る方法 1

① モニタソフト側でデータ項目0083H(状態フラグ1の読み取り)の2^{15}: キー操作変更の有無に”有り(1)”がセットされたのを見て，全設定値を読み取ってください。
② データ項目007FH(キー操作変更フラグのクリア)で変更フラグのクリア(0001H)をセットし，データ項目0083H(状態フラグ1の読み取り)の2^{15}: キー操作変更の有無をクリアしてください。
本器の設定モード中に，データ項目007FH(キー操作変更フラグのクリア)で変更フラグのクリア(0001H)をセットしようとすると，否定応答としてエラーコード5(35H)(神港標準プロトコル)または異常コード18(12H)(MODBUSプロトコル)を返し，データ項目0083H(状態フラグ1の読み取り)の2^{15}: キー操作変更の有無をクリアできません。
否定応答が返ってきている間，全設定値を読み取るような処理を作成してください。
③ 肯定応答が返ってきた後，再度全設定値を読み取ってください。

(2)キー操作による設定値変更を読み取る方法 2

① モニタソフト側でデータ項目0083H(状態フラグ1の読み取り)の2^{15}: キー操作変更の有無に”有り(1)”がセットされたのを見て，データ項目007FH(キー操作変更フラグのクリア)で変更フラグのクリア(0001H)をセットしてください。
② 肯定応答の場合，否定応答の場合に分け，下記のような処理を作成してください。
肯定応答が返ってきた場合
設定終了と判断し，全設定値を読み取ってください。
否定応答としてエラーコード5(35H)(神港標準プロトコル)または異常コード18(12H)(MODBUSプロトコル)が返ってきた場合
設定モード中と判断し，データ項目 0080H(溶存酸素濃度の読み取り)，データ項目 0090H(温度の読み取り)，データ項目 0083H(状態フラグ 1 の読み取り)，データ項目 0093H(状態フラグ 2 の読み取り)などの必要最小限のデータのみの読み取り処理を行い，①に戻ってください。

このようにすると，設定終了するまでモニタソフト上の設定値は更新されませんが，スキャンタイムに影響を与えないプログラムが作成できます。

7.6.3 全設定値を一括送信する場合の注意

・データ項目 0014H(EVT1 動作選択), 0022H(EVT2 動作選択), 0030H(EVT3 動作選択), 003EH(EVT4 動作選択)で動作を変更した場合，EVT1～4 設定値は”0”に戻ります。
EVT1, EVT2, EVT3, EVT4 動作選択を送信してから，データ項目 0015H(EVT1 設定), 0023H(EVT2 設定), 0031H(EVT3 設定), 003FH(EVT4 設定)で EVT1～4 設定値を送信するようにしてください。

8. 仕 様

<table>
<tr><td colspan="2">シリアル通信</td><td colspan="4">外部コンピュータから次の操作を行う。
(1) 各種設定値の読み取りおよび設定
(2) 溶存酸素濃度，溶存酸素飽和率，酸素分圧，温度，状態の読み取り
(3) 機能の変更，調整
(4) ユーザ保存領域の読み取りおよび設定</td></tr>
<tr><td></td><td>ケーブル長</td><td colspan="4">1.2km(最大)　ケーブル抵抗値 50 Ω以内
(終端抵抗：なしまたは片側に 120 Ω以上)</td></tr>
<tr><td></td><td>通信回線</td><td colspan="4">EIA RS-485 準拠</td></tr>
<tr><td></td><td>通信方式</td><td colspan="4">半二重通信</td></tr>
<tr><td></td><td>通信速度</td><td colspan="4">9600, 19200, 38400 bps をキー操作により選択</td></tr>
<tr><td></td><td>同期方式</td><td colspan="4">調歩同期式</td></tr>
<tr><td></td><td>符号形式</td><td colspan="4">ASCII，バイナリ</td></tr>
<tr><td></td><td>通信プロトコル</td><td colspan="4">神港標準，MODBUS ASCII，MODBUS RTU をキー操作により選択</td></tr>
<tr><td></td><td>データビット/
パリティ</td><td colspan="4">8 ビット/無し，7 ビット/無し，8 ビット/偶数，7 ビット/偶数，8 ビット/奇数，7 ビット/奇数をキー操作により選択</td></tr>
<tr><td></td><td>ストップビット</td><td colspan="4">1 ビット，2 ビットをキー操作により選択</td></tr>
<tr><td></td><td>エラー訂正</td><td colspan="4">コマンド再送</td></tr>
<tr><td></td><td>エラー検出</td><td colspan="4">パリティチェック，チェックサム(神港標準プロトコル)，LRC(MODBUS プロトコル ASCII)，CRC-16(MODBUS プロトコル RTU)</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="5">データの構成</td><td>通信プロトコル</td><td>神港標準</td><td>MODBUS ASCII</td><td>MODBUS RTU</td></tr>
<tr><td></td><td>スタートビット</td><td>1 ビット</td><td>1 ビット</td><td>1 ビット</td></tr>
<tr><td></td><td>データビット</td><td>7 ビット</td><td>7 ビット(8 ビット)
選択可能</td><td>8 ビット</td></tr>
<tr><td></td><td>パリティ</td><td>偶数</td><td>偶数(無し，奇数)
選択可能</td><td>無し(偶数，奇数)
選択可能</td></tr>
<tr><td></td><td>ストップビット</td><td>1 ビット</td><td>1 ビット(2 ビット)
選択可能</td><td>1 ビット(2 ビット)
選択可能</td></tr>
</table>

9. 通信できない時は?

マスターおよびお客様ご使用のスレーブに，電源が供給されているか確認してください。
それでも通信できない場合は，下記に示す内容の確認を行ってください。

現象・本器の状態など	推定故障個所	対 策
通信できない。	通信ケーブル，コネクタがはずれていませんか?	通信ケーブル, コネクタを確認してください。
	通信ケーブル，コネクタの配線を間違えていませんか?	通信ケーブル, コネクタを確認してください。
	通信ケーブル，コネクタの断線および接触不良はありませんか?	通信ケーブル, コネクタを確認してください。
	マスターとスレーブの通信速度は一致していますか?	マスターとスレーブの通信速度を確認してください。
	マスターとスレーブのデータビット，パリティ，ストップビットは一致していますか?	マスターとスレーブのデータビット，パリティ, ストップビットを確認してください。
	スレーブの機器番号と，コマンドの機器番号は一致していますか?	スレーブの機器番号と, コマンドの機器番号を確認してください。
	同じ機器番号を設定しているスレーブはありませんか?	機器番号を確認してください。
	送信タイミングを考慮したプログラムになっていますか?	プログラムを確認してください。
通信はできるが，否定応答が返ってくる。	存在しないコマンドコードを送っていませんか?	コマンドコードを確認してください。
	設定範囲外のデータを送っていませんか?	設定範囲を超えていないか確認してください。
	設定できない状態(校正中)ではありませんか?	スレーブの状態を確認してください。
	キー操作による設定モード中ではありませんか?	表示モードまたは洗浄出力モードに戻してください。

◆ご不明な点がございましたら，弊社営業所または出張所までお問い合わせください。

Shinko 神港テクノス株式会社

本　　社　〒562-0035　大阪府箕面市船場東 2 丁目 5 番 1 号
TEL: (072)727-4571　FAX: (072)727-2993
[URL] http://www.shinko-technos.co.jp

大阪営業所　〒562-0035　大阪府箕面市船場東 2 丁目 5 番 1 号
TEL: (072)727-3991　FAX: (072)727-2991
[E-mail] sales@shinko-technos.co.jp

東京営業所　〒104-0033　東京都中央区新川 1 丁目 6 番 11 号 1201
TEL: (03)5117-2021　FAX: (03)5117-2022

名古屋営業所　〒461-0017　愛知県名古屋市東区東外堀町 3 番
CS 東外堀ビル 402 号室
TEL: (052)957-2561　FAX: (052)957-2562

神奈川　TEL: (045)361-8270　FAX: (045)361-8271
北　陸　TEL: (076)479-2410　FAX: (076)479-2411
広　島　TEL: (082)231-7060　FAX: (082)234-4334
福　岡　TEL: (0942)77-0403　FAX: (0942)77-3446